

共生

奈良県生協連

2020年10月

NO.118



おかげさまで奈良県生活協同組合連合会は、3月に30周年を迎えることができました。

あらためて行政、諸団体、全国の生協の仲間に感謝申し上げます。

(写真は1990年3月8日 共済会館やまにて)

もくじ

奈良県生協連創立期のころ…………… 1・2

おじゃましました番外編

～コロナ禍のフードバンク奈良～………… 3・4

奈良県生協連の平和活動のあゆみ………… 5・6

奈良県生協連の消費者課題のあゆみ… 7・8

30周年記念事業関連報告…………… 9

Peace Now! 奈良2020

オンライン講座…………… 10

奈良県生協連創立期のころ

前会長 瀧川 潔



奈良県にも生協連を設立しようということになったのは、何よりも全国で3つの県にまだ生協連がなく、奈良県がその一つであること、奈良市民生協が創立後15年を過ぎ、組合員数約20万人、事業高200億円超となり、活動の母体となれる状況にあること、県内で奈良市民生協(現ならコープ)

の外は労働者共済生協、小規模国立大生協が2つ、天理高校の寮の米を扱うおやさと生協と、全部で5生協しかないこと、さらに、当時の日本生協連では都道府県連に活動費が還元配賦されており、県連がない奈良県には配賦がなかったこと、等がありました。なお、その時期に奈良市民生協の組織活動担当常勤理事は瀧川で、他生協との連帯活動も検討事項であり、小規模大学生協の専務理事経験と大学生協連での経営指導経験や、労働組合系の共済生協にも運動の心当たりがあって、県生協連結成は好機ではという状況でした。

87年の3月には、瀧川は事業担当として奈良女子大生協と奈良教育大生協、奈良市民生協の3者で購買生協協議会を発足させ、商品の協力の検討などを始めていましたので、その流れの中で、当時の奈良市民生協伊藤次栄専務理事の意向も受けて、89年4月から県連結成の準備に取り掛かりました。

まず2つの大学生協に県連の結成について協力をお願いし、女子大生協専務の安田(横山)史氏、教育大生協専務の田和成司氏の了解を取り付け、各理事長先生の確認を得ました。次におやさと生協に連絡し、事務所に通って上田久司氏に説明すると、上司に相談するとのこと。会費は、それ以上の支援策で穴埋めしご負担はかけない旨を説明し、その後おやさと生協理事の土田英二先生の了解を得ました。宗教団体の関連もありましたが大きな問題もなく賛同を得ました。次に奈良県労働者共済生協(全労済)に連絡、事務局長の内田氏と話し合ったところ、「前任地の滋賀県で県連に参加していた」ということで問題ないのではとのことで、特に問題もなく労済生協理事長の了承も得ました。

こうして順調に県連結成の準備が進み、奈良県で活動する5つの全ての生協の参加によって、90年3月8日設立総会が開催されました。会長に奈良市民生協理事長の繁田實造先生、専務理事に瀧川を選出、理事には労済生協副理事長福西幸夫氏、大学生協からは先述の安田氏と田和氏、おやさと生協からは土田先生、監事には労済生協末武愛士氏、奈良女生協落合豊行先生が選任されました。

初期の活動は、「まずお互いに知り合うこと、仲良くなること」を目的とし、理事会は各生協持ち回りで開催、会議後は飲食を共にすることを心掛け、各種生協間の交流がまず役員同士で進みました。

設立初期の重要な交流活動費には前述の日本生協連の還元金をあてました。この還元金は初期に於いての活動に大きな力となり、遠方の沖縄県生協連へ平和学習を兼ねての研修や、異種間生協の連携が進んでいる福井県生協連への研修、地勢と人口の配分が似ている岐阜県生協連への研修、また、環境ヨーロッパ視察ツアーに若い大学生協専務の田和氏を派遣する際に基礎資金として活用することが出来ました。特に活動の厳しい小生協にとって、このような費用は捻出しがたく、協同の力を感じてもらい、また励ましになればこの上ないことです。奈良県生協連にとっては、初期の活動に大きな力を発揮し、貢献したといえます。こういった活動によって、奈良県生協連がお互いの生協の状況を尊重し、和気あいあいとした運営を継続し、総会後の交流会を含め、近畿や全国の中でも評価される運営を構築できている土台が形成されたわけです。

(その後、この還元金は会員生協への日本生協連還元に変更され、各会員から会費に含めて徴収されています。)

県生協連ができたことで、基本である県全体の生協の協同活動の発展の他に、生協運動に貢献できたことはいくつかありますが、二つを上げておきます。



第一回近畿地区生協・行政合同会議

奈良県生協連創立期のころ

まず一つは行政との関係です。

行政では、ならコープのように大きくなった組織でも、一つの団体と深くつながって物事を進めるのは、行政上なかなか難しい面があります。

奈良県生協連があれば、県政に対応し、生協としてまとまった活動や要望を知らせ、意見を述べ、また必要な場合は県政に協力して活動を進めることが出来ます。

奈良県生協連は、設立初年度から近畿地区生協・行政合同会議に県とともに取り組み、91年度から県担当課(現消費生活安全課)との協議会を開催、その後年2(～4)回の協議会を開催してきました。

その結果もあって、県政の生活協同組合理解が進み、その一例として94年以来、各種委員会の委員の委嘱が次々と進められ、現在多くの委員が奈良県生協連を通じて委嘱されています。これは単なる委員の委嘱ではなく、生協が信頼を得ている証と受け止める必要があります。また、生協や役員への知事表彰、厚労大臣表彰などもいただけてきました。

また各政党や国会議員、県会議員との関係構築も奈良県生協連として進め、各議員事務所を訪問し生協への理解を広げる活動に取り組みました。「選挙での票の期待」も出ますが、生協法や、選挙時の厚労省の「注意文書」を説明し、組織としての中立性の理解を進めてきました。

二つ目は、くらしに密接な他の協同組合との連携の推進です。

生協の食で重要な農業協同組合との連携は、創立期は農協の方で要望を聞いてもらえる状況になく、生産者直取引等できていましたが、奈良県農協との話し合いを持ち、連携の可能性が高まりました。特に奈良県農協連の高田昌彦会長理事は、生協の活動や組合員活動に大きな関心を寄せられ、「農協も生協のように奈良県全体の組織にしたい」と語られ、全国でも早期に県内単一の農協組織を実現されました。まず、「国際協同組合デー」に合わせて「協同組合デーのつどい」を開催、91年と92年の7月に農協連と生協連共催で開催され、その経過の中で瀧川から高田会長に「奈良県の協同組合に呼びかけ、高田会長を中心に奈良県協同組合連絡協議会を設立していただけないか」とお願いしたところ了解いただき、農協連、森林組合連、生協連の参加で93年1月に奈良県協同組合連絡協議会設立総会が開催されました。全国でも少ない画期的な連携組織設立でした。



協同組合連絡協議会

おじゃましました // コロナ禍のフードバンク奈良

～番外編～

2020年は新型コロナウイルスの出現で世界が一変しました。1月以降から日本でも感染拡大し、感染防止の観点から、3月2日から全国すべての小中高校に臨時休校要請が出されました。奈良県内の学校もほぼ全域で休校になりました。その後4月7日に緊急事態宣言が首都圏に、4月16日には全国に拡大して発令されました。5月25日にはいったん緊急事態宣言は解除されましたが、再度、感染者は増加し、感染者数の波は繰り返すといわれています。飲食業、観光業を中心に経済的な打撃は甚大で、仕事がなくなり収入が激減するなど大変厳しい状況に置かれている方が大勢いらっしゃいます。また、学校の休校に伴い、満腹に食事をとれていない子どもや家庭内での虐待も懸念されています。地域のこども食堂も「三密」を避けるために開催を見送っていた団体も多く、地域のつながりが分断され、地域コミュニティが低下していることが大変な課題となっています。そこで奈良のフードバンクから見たコロナ禍での対応の様子をお伝えします。

コロナ禍のフードバンク奈良の活動

- 2月** ・新型コロナウイルス感染拡大の兆し
- 3月** ・会合開催の自粛が始まり、こども食堂を休止する動き。
パントリー（食品を取りに来てもらう）や宅配（食品を届ける）に移行する団体も現れる。
・ **フードバンク奈良への食品支援の相談が多くなる。**
・ **臨時休校に伴う学校給食食材の寄贈**の相談を県内複数の自治体（橿原市、香芝市、田原本町など）から受ける。
（3月に2回、奈良県の支援を受け福祉団体等へ配布）
- 4月** ・奈良ロータリークラブ、奈良ロータリーアクトクラブとフードバンク奈良との協働事業「**子ども支援プロジェクト**」で4月29日に100件、5月12日に122件食材発送。
- 5月** ・奈良市社会福祉協議会から緊急小口資金利用者への生活応援のための食品提供プロジェクトへの協力依頼
・ 奈良市こども未来部（こども育成課、こども政策課）職員がフードバンク奈良を見学。奈良市社協との連携が進む。
・ 3月分奈良市学校給食食材の廃棄を避けるために、奈良市保健給食課とフードバンク奈良とで相談を重ねる。
・ **奈良市学校給食食材配布作業**（5月29日）
コープふれあいセンター六条にて常温管理食材12.2トン（32品目）、冷凍食材1.3トン（2品目）を県内福祉団体やこども食堂等27団体に配布。
- 6月** ・ **奈良市学校給食冷凍食材配布作業**
冷凍食材3.18トンを借用した民間の冷凍庫に搬入。混雑を避け、6月10日と15日の2回に分け県内福祉団体等17団体に配布。6月18日に1団体に配布。

「子ども支援プロジェクト」

何らかの公的扶助を受けている方が支援の条件。30～40代が6割。ひとり親の方が6割でした。教育委員会と学校、社協にかけあって、学校でチラシ配布を働きかけた方がいた地域では広報が届いたようです。緊急事態宣言発令下、大勢で集まれず、広報はSNSや一部の新聞の掲載のみ。知らない方が多かったので同様の取り組みをする場合は、行政機関との連携が重要です。

子ども支援プロジェクト仕分けの様子



学校給食食材の仕分けの様子



奈良市学校給食食材配布作業(5月29日) コープふれあいセンター六条
常温管理食材12.2トン、冷凍食材1.3トンを27団体に配布。



奈良市学校給食冷凍食材3.18トンを借用した
民間の冷凍庫に搬入。混雑を避け、6月10日
と15日の2回に分け、17団体に配布。

6月30日 フードバンク奈良総会(役員以外は書面決議による承認)
任意団体フードバンク奈良(正会員13名出席)
2019年事業報告、2019年度決算、団体の解散に伴う財産譲渡
NPO法人フードバンク奈良(正会員11名出席)
2019年度事業報告・決算報告・財産を受けることを承認

7月30日 フードバンク大牟田から個別に依頼を受け、豪雨災害支援の
ためにオムツ、離乳食、レトルト食品を送りました。

8月10日 NPO法人フードバンク奈良臨時総会(正会員14名出席)
2020年度事業計画、2020年度予算
協力支援をいただいている7団体*に感謝状贈呈
*奈良県生協連、ならコープ、奈良ロータリークラブ、
奈良ワイズメンズクラブ、生長の家奈良教化部、天理教旭日大教会、
三重県奈良県読売会

※フードバンクの活動

毎月 第1、第3火曜日の午後にこども食堂や障がい者福祉団体や生活支援
団体へ配布する活動を継続。



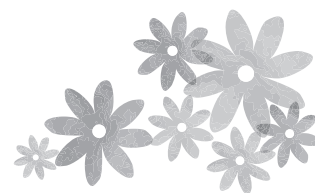
フードバンク奈良臨時総会の様子
賛助会員やオブザーバーなど31名が
参加されました。



感謝状贈呈(奈良県生協連)

今後に向けて

「新型コロナウイルス禍で、仕事なくなるなど大変厳しい生活をされている方が増えている」と、地域の社会福祉協議会や生活困窮者支援をしている団体の方から状況をお聞きしたり、フードバンク奈良の提供食品に感謝の言葉をいただきます。県内自治体からは「食品ロス削減推進法の施行(2019年10月)」から「食品ロス」がテーマに上がり、「廃棄物処理」をする担当課がフードバンク奈良へ見学に来られますが、生活支援で食品を必要とされている人たちの窓口は福祉部門であり、行政内の連携を望んでいます。食品ロス削減と貧困問題の解決に結びつけるには、フードバンクの存在が欠かせないと思います。冷蔵庫と冷凍庫も、民間の助成金を受け六条の作業所に設置されました。今後の活動が期待されています。



2020年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度を受け奈良ストップ温暖化の会主催(奈良県生協連後援)で、「交流・体験セミナー『コロナ禍の子どもたち』」が9月21日、コープふれあいセンター六条にて開催され、作業体験とフードバンク奈良、奈良市社会福祉協議会、NPO法人あゆみの家、天理ニコニコ食堂から活動報告がありました。

10月30日開催予定の奈良県食品ロス削減推進フォーラムにも参加予定です。

会員生協とともに、奈良県生協連平和の取り組み30年の歩み ～平和とより良い生活のために～

日本生活協同組合連合会は、1951年の創立宣言で、「平和と、より良き生活こそ生活協同組合の理想であり」「最大の使命」であるとうたいました。それ以降“平和とより良き生活のために”は全国の生協運動のスローガンとして使われています。

奈良県生協連が設立されるまで(1975～)

奈良県の生協は創立以来、一貫して「平和な世界を目指す」「核兵器廃絶をめざす」取り組みを大切にしてきました。1981年大和郡山城跡公園で行われた「生協フェスティバル」で「平和のための戦争・原爆展」が開催され3,000人が参加しました。

また、1981年には、アメリカで眠っていた核被害を記録した映画フィルムを市民運動によって入手し(10フィート運動)つくられた記録映画『にんげんをかえせ』、『予言』の上映運動が県内各地で展開され、その取り組みをもとに、1982年に開催された国連軍縮特別総会(SSDⅡ)に2名の代表を派遣しました。(1988年のSSDⅢにも2名代表派遣)奈良県原爆被害者の会(わかくさの会)の設立の前年(1984年)からは「被爆者救援募金」が開始され、わかくさの会や原爆被害者相談員の会などに届けられてきました。

1983年には平和行進に初めて参加しました。その後1985年からは「市民平和行進」として実施、「ピースリレー」と名前を変えながらも2005年まで実施されました。特に1991年からはならコープ職員の行進者を出すことで、参加が地域に広がりました。



平和行進に参加する
大学生協の学生

奈良県生協連が設立されさらに取り組みが広がる(1990～)

1990年に5生協によって奈良県生協連が設立され、平和行進などで平和の大切さや核兵器廃絶をアピールし、その後「ピースアクションinなら」(2005年から現在まで継続して開催)などで、被爆の実相を学びわたしたちにできることについて考え交流してきました。また、1991年から2002年までは12月8日を中心に毎年「ノーモアウォーのつどい」(ならコープ主催・奈良県生協連共催)が開催され平和や戦争について考えました。

1991年、湾岸戦争に対して2,000人がはがきでアメリカ大使館に向けて反対を訴えました。

1992年7月に京都で開催された「国際平和研究学会」に瀧川潔県連専務が参加しました。

1994年には、被爆50年(1995年)に向けて、わかくさの会の被爆体験集「原爆へ平和の鐘を(第3巻)」の作成に向けて、聞き取り、テープ起こしに生協の組合員が協力しました。

1998年には、「第5福竜丸エンジンを東京夢の島へ」の取り組みに賛同し、コープいまごに展示しました。

2005年核兵器不拡散条約(NPT)に県連の代表として大学生協学生委員の岡本拓郎さんを派遣。(2015年に同じく村上泰三さんを派遣、2020年には同じく宮本志音さんの派遣予定でしたがコロナ禍で中止となりました)

2006年に、全国で初めて奈良県原爆被害者の会(わかくさの会)が解散しましたが、奈良県生協連では、ピースアクション等を通じて県内の被爆者の方に被爆体験を話していただく活動を継続してきました。



講演をする筑紫哲也氏

核兵器禁止条約の国連での採択とヒバクシャ国際署名の取り組み(2017～)

2017年7月に国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。

「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」との想いから、被爆者たちが呼び掛けたヒバクシャ国際署名の取り組みを奈良県内で2017年にスタートさせました。各会員生協での組合員への呼びかけ、奈良県生協連を中心とした県内市町村長への署名の呼びかけに取り組みました。2020年9月までに県内の生協で23,075筆寄せられました。荒井知事をはじめ38首長が署名されています。(2014年には、広島平和文化センターや奈良YMCAと協力し、平和市長会議の未加盟自治体を訪問し参加を呼び掛けています)。

ならコープでは1990年に「被爆者援護法制定を求める署名」(81,559筆)、1995年「核兵器は国際法違反との勧告を国際司法裁判所に求める署名」(61,323筆)などにも取り組んでいます。



奈良市長に署名を呼びかけ



ピースかふえ

県内被爆者の手記と活動資料を継承する活動(2017～)

2017年からは、「被爆者一人一人の人生を記し、残したい」と県内の被爆者(わかぐさの会)の活動資料や手記の収集保存活動をすすめる入谷方直氏と連携し「継承する活動」に取り組んできました。

2017年からの「ピースアクションinなら」や「ピースかふえ」などで、入谷氏の活動を紹介したり、入谷氏の活動からわかったこと「被爆者が残したものの価値を知る」などを報告し参加者と共有しました。また、「被爆者運動に学び次世代につなぐ」と題してノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の栗原淑江氏にお話をさせていただきました。

2019年10月には、ならこープの「平和ライブラリー」開設記念企画(奈良県生協連共催)として、被団協事務局次長の濱住治郎氏による「胎内被爆者としての被爆体験」の講演会が行われました。これらの取り組みを通して、これまでつながりのなかった県内被爆者の方や被爆体験継承の活動を進めている方なども多く参加されました。現在も「生協と市民で発掘、継承する」活動を大切に継続しています。

コロナ禍の中でも核兵器を目指す取り組みは止まらない(2020)

新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大する中で、NPT再検討会議が延期を余儀なくされました。しかし、コロナ禍でも核兵器廃絶をめぐる会議や被爆者の証言をオンラインで開催する動きが全国ですめられています。2016年から「Peace Now! 奈良」が、奈良の3大学の生協学生委員により、「平和について『知り』、戦争の歴史や現在起こっている問題に関心を『深め』、一人ひとりが身近なテーマとして『考える』」ことを目標に開催されています。5回目となる2020年は、コロナ禍の影響も考慮しながらも、ミーティングや練習を重ねていつもとは違った苦勞を乗り越え、Zoomを使って開催されました。(奈良県生協連後援)



Peace Now! 奈良

ピースアクションinならの歩み

年度	テーマおよび主な企画、講師など
2005	語ろう平和・考えよう世界の中での日本の役割 いま私たちにできること「筑紫哲也 NEWS23」メインキャスター 筑紫哲也氏
2006	くらしから求める平和～くらしを通じて今、私たちができること～ 立命館大学教授・立命館大学国際平和ミュージアム館長 安斎育郎氏
2007	「日本の青い空」上映
2007	(第2弾) 朗読劇「この子たちの夏」
2008	被爆体験 秋山勝彦氏／「マヤの一生」上映
2009	再びヒバクシャをつくらないために 日本原水爆被害者団体協議会事務局次長 岩佐幹三氏／「つるにのって」上映
2010	世界の平和のために私たちができる事 ジャーナリスト 伊藤千尋氏
2011	核兵器廃絶に向けた平和市長会議の取り組みと市民の役割 前広島市長 秋葉忠利氏 県内の市・町長さんに平和への想いを語っていただきました
2012	教えてリーパーさん「世界の平和と核兵器」(公財)広島平和文化センター理事長 スティーブン・リーパー氏
2013	さいごのトマト～ヒロシマを私自身の『ことば』で～ 元日本生協連会長 竹本成徳氏
2014	子どもたちに残したい 核兵器のない世界をめざして 安斎科学・平和事務所所長 安斎育郎氏
2015	原爆被害の実相と70年間の被爆者の想いと行動 日本原水爆被害者団体協議会事務局長 田中熙巳氏
2016	核兵器を巡る現状と次世代へのアプローチ 長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授 中村桂子氏
2017	核兵器を取り巻く世界情勢 (公財) 広島平和文化センター常務 岩崎静二氏
2018	核兵器禁止条約をつくった人々 日本原水爆被害者団体協議会事務局長 木戸季市氏 ICANが受賞したノーベル平和賞メダルと賞状公式レプリカ展示
2019	核兵器をめぐる世界の動きと私たちにできること 長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授 中村桂子氏

*なお1990年の生協連が設立されるまでは、主にならこープの取り組みですが、県内の生協の主な取り組みとして記載しています。会員生協との共催や連携した取り組みも含まれます。また、上記以外に会員生協により県内各地で様々な企画が取り組まれています。 *役職名等は当時に準じて掲載させていただいております。

奈良県生協連の消費者課題のあゆみ

奈良の消費者ネットワーク

きのう きょう あした

奈良県には暮らしに身近な消費者問題に、消費者と専門家、行政等の連携のもと取り組んでいる消費者ネットワークがあります。第三次石油パニック時、価格・物価調査から奈良県生協連も消費者活動が始まりました。また奈良県生協連設立当初から関西消費者団体連絡懇談会に加入し諸団体と消費者運動を進め、2005年にはKC'sの設立にも参画しました。活動をふりかえり、これからを展望します。

消費者関連法案の流れ

食品衛生法…………… 1948

◇高度経済成長期

◇公害・薬害問題多発

消費者保護基本法…………… 1968

第1次オイルショック…………… 1973

◇大量生産大量廃棄

◇食品添加物問題

豊田商事事件…………… 1985

製造物責任法…………… 1993

特定商取引法・消費者契約法・
割賦販売法…………… 2000◇BSE牛問題・相次ぐ食品表示
偽装

◇架空請求・振込め詐欺の多発

食品安全基本法…………… 2003

消費者基本法…………… 2003

消費者支援機構関西設立・

こむらいふ奈良発足…………… 2005

団体訴訟制度…………… 2006

地方消費者行政活性化基金創設
…………… 2008

消費者庁発足…………… 2009

奈良の消費者行政を考える会発足
…………… 2009

消費者教育推進法…………… 2012

奈良県の消費者ネットワーク
準備会議…………… 2012なら消費者ねっと任意団体設立
…………… 2013

法人格取得…………… 2015

集团的被害回復制度スタート
…………… 2016奈良県消費者教育推進計画(第1期)
…………… 2016◇高度情報化社会の進展
インターネット契約・デジタル
サービス市場の拡大◇高齢化の進行と長寿化
成年年齢引き下げ…………… 2022

消費者のつながりをもとめて

2000年代前半までの奈良県は、県生活学校、県地域婦人団体連絡協議会、行政の勉強会を機に発足したいくつかの自主研究会などの団体やグループがそれぞれ独自の消費者活動を行っていました。そして事業を通して消費者のよりよい選択と利益実現を目指した地域購買生協では、多くの組合員が学習活動に参加しました。しかしこれらの団体はお互いに交流がなく、高度化する市場で消費者が力を持つためには全国に設置されている「消費者団体連絡会」を奈良県にも、と望む声もありました。

複雑・深刻化する消費者トラブル・変わる消費者政策

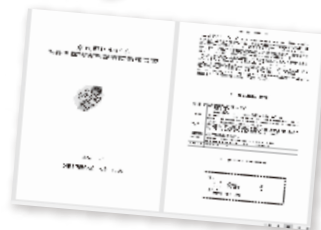
後を絶たない悪質商法と相次ぐ消費者トラブルを防止して消費者の権利を守るため2003年頃から消費者契約法などの法整備が進みました。同時に、被害救済や相談体制をすすめ地方消費者行政を充実強化する政策と予算が国から打ち出され、これに賛同する消費者団体と相談員や弁護士、司法書士など専門家が地域ごとに手を結ぶネットワーク形成の機運が全国的に高まりました。また消費者基本法は消費者をそれまでの「保護の対象」から「自立した存在」と捉えなおし、生協などでは「かしこい消費者」をめざす学習の取り組みも活発になりました。

消費者の自立へ！こむらいふ奈良が発足

2005年、奈良県生協連の呼びかけにより、県内の消費者団体と生協組合員らがともに語り学ぶ場として消費者問題研究会「こむらいふ奈良」が立ち上がりました。当初は弁護士からの助言も受けながら県内の消費者問題について考え、奈良県の消費者被害実態調査を1000件規模で行いました。その後も学びの活動を続け、葬儀と埋葬の実態研究「今どきのお葬式事情」をはじめ、クレジットカード類、健康食品の表示、通信料金の実態など「今どきシリーズ」報告書を、なら消費者ねっとの活動に統合するまでの10年間で7冊にまとめました。

奈良の消費者行政を考える会 出会いと連携

一方、社会の大きな関心事となった悪質商法等による被害の未然防止に国が創設した「活性化基金」を奈良でも有効に活用しようと、2009年12月に専門家や消費者など8団体32会員が参加、「奈良の消費者行政を考える会」を結成し奈良県生協連が事務局を務めることになりました。行政と弁護士、相談員、消費者といった多様な立場の人たちが、よりよい消費社会という共通の目的のもと出会うことができました。これが奈良の消費者ネットワークの始まりといえます。



こむらいふの活動報告書

2009年「考える会」と
荒井県知事との懇談

会の目的は、市町村消費者行政の充実応援と基金活用の提言であり、その活動期間は基金に合わせ3年期限としましたが、それ以降も代表の北條弁護士はじめ世話人メンバーがのちのネットワークの土台を支えることとなりました。具体的な活動としては、現場の実情や基金活用状況を知るため09年6月と10年4月の2回、県内市町村消費者行政調査を行いました。これらの調査結果をもとに自治体を訪問して延べ10回の懇談の場を持ちました。また国に対し意見書を提出したほか、シンポジウムや講演会などを4回開催し、消費者行政や消費者問題についての情報と問題意識を県民に発信しました。



2011年3月 考える会主催のシンポジウム

なら消費者ねっとの誕生

これらの活動を引き継いでネットワーク立ち上げ準備が進み、2013年2月に「なら消費者ねっと」が設立されました。考える会に加え、社会福祉関連の団体や啓発活動グループが加わり、消費者問題の解決に向けた幅広い輪ができました。「自立した消費者が育ち、被害のない安心してらせるまちづくり」を目的に「①意識啓発・教育②提言③調査研究④消費者の権利保護」の4事業を行うこととしました。とくに④の権利保護は、不当な契約や勧誘に対し事業者には是正を求める活動で、専門家と消費者が参加する団体ならではの取り組みであり、国による「適格消費者団体」認証を目指しています。また2012年に消費者教育推進法が成立したこともあり、教育推進の担い手としても役割が発揮できるよう活動をすすめています。

2013年2月 なら消費者ねっと設立総会
阿南消費者庁長官(当時)を囲んで

設立当時の賛同人と諸団体

消費者、弁護士、司法書士、消費生活相談員、県地婦連、こむらいふ奈良、奈良県生協連と会員生協、グループあんあん、ざ・ひめみこ、成年後見センター・リーガルサポート奈良県支部、奈良県社会福祉士会
※協力：奈良県消費・生活安全課、県消費生活センター



出前講座 おかねのひみつと使い方



県社会福祉士会ソーシャルワーカーデー



毎年度開催している県行政との懇談会

教育事業では、毎年度の総会記念学習講演会のほか、子ども向け金銭教育「おかねのひみつと使い方」や高齢者の集まりへの出前講座などに取り組み、最近では障がいのある方対象の講座にもチャレンジしています。また奈良県社会福祉士会との共催イベント、奈良女子大学消費者問題研究会BEACSとの連携など、会員同士の関係性や専門性を生かした活動も多くなりました。

なら消費者ねっと 適格消費者団体をめざして

もう一つの大きな柱である権利保護事業は、2017、2018年度に「奈良県消費者利益擁護支援事業」を受託することができ、これらを合わせて事業者への是正要請活動はこれまでに12件交渉、うち7件解決という実績になっています。ますます複雑多様化する消費者被害が全国で多数おきている中、消費者団体によるこうした活動は、県内の身近な事案をとりあげ地域の問題を地域が自ら関わり改善や解決に結びつけるものとして今後も期待されるものです。取り組みを安定して強めていくには適格消費者団体となる必要があり、2022年度内の認証取得を目標に準備を進めています。公正な市場と消費者市民社会をともに築いていくために、県内の様々な関連諸団体にも理解と協力を求めています。

30周年記念事業について

奈良県生協連は、おかげさまでもちまして今年3月に設立30周年を迎えることができました。

ひとえに行政、県内協同組合連絡協議会、各諸団体、府県連、会員生協の皆様の支援・ご配慮であり、この紙面をお借りして感謝いたします。

1. 記念式典

11月21日（土）10：00～11：20奈良ロイヤルホテルで開催します。理事会や30周年記念事業実行委員会で開催、延期などの議論を重ねました。新型コロナウイルス感染予防の観点から理事会、実行委員会メンバーのみリアル参加とし、ご来賓はすべてオンライン（Zoom）で開催を予定しています。本来であれば式典、セレモニーでお世話になった行政、奈良県協同組合連絡協議会、NPO、友誼団体、府県連生協、会員生協をお招きし、記念コンサートも予定していましたが大幅に変更せざるを得なくなりました。

オンラインでの開催になりますが、たくさんの方にご参加いただけるように準備を進めています。また、今後はオンラインによる企画が増えることからこの機会に運用のレベルを上げ、他の企画に反映していきます。

2. 30周年誌の発行

（1）設立趣意書の奈良県生協連の発足に立ちかえり、活動、あゆみ、テーマごとの変遷をSDGsの視点で整理し、振り返ります。また、対談は奈良県社会福祉協議会 中 幸司常務理事と奈良県生協連 森 宏之会長の対談で県社協の取り組みを学び、奈良県生協連への期待をお聞きました。

（2）2020年ビジョンの振り返り

2009年に仲宗根 迪子元専務理事が答申し、後任の辻 由子前専務理事が引き継ぎ活動に取り組んできました。お二人の対談でこの10年を振り返り、2030年に向けたビジョンを策定していく予定です。

3. 県内の被爆体験集（仮称）の発行

編集委員会を10月に立ち上げて、奈良県内の被爆者の体験集を発行する予定で進めています。

奈良県原爆被害者の会（わかくさの会）が被爆者の証言集を1986、1990、1995年に発行されていますが2006年に解散され、以後被爆者の体験は継承されていません。著作権、被爆者への配慮、冊子の校正などやるべきことはたくさんありますが入谷方直（奈良県在住の被爆体験伝道者）氏の協力のもとで被爆者の体験から苦難を乗り越えて生きてこられた姿や原爆が、いかに非人道的なものをまとめて次世代につなぐ取り組みにします。

●30周年誌発行に向けて対談を行いました

9月23日に奈良ロイヤルホテルで奈良県社会福祉協議会 中 幸司常務理事と奈良県生協連 森 宏之会長とでテーマ「地域共生社会をつくる～何をめざしてきたのか、そして何をめざすのか～」で対談しました。

コロナ禍の状況と対応、「県社協第6次活動推進計画」、居場所づくり、防災プラットフォームなど「地域共生づくり」に向けて双方の取り組み交流と奈良県生協連への期待をお聞きました。30周年誌に対談集として掲載し、式典でもご紹介する予定です。



対談準備の様子

Peace Now! 奈良2020

9月27日(日)奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立大学の生協学生委員11名の実行委員会が企画・主催する「Peace Now! 奈良2020」が開催され、学生委員25名、ならコープ、コープ自然派奈良、奈良県生協連や大学生協職員9名が参加しました。

5回目となった今回は当初6月の予定でしたがコロナ禍で開催さえ危ぶまれましたが実行委員の皆さんが奮闘され、奈良県生協連が(株)アステムさんの協力を得て微力ながら支援しました。

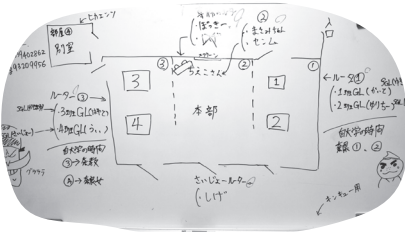
今回の獲得目標は「平和について自分で考えられるようになる」とし、三密をさけるために実行委員のみが会場(ならコープ本部会議室)に集結し、参加者はオンライン(Zoom)で開催されました。14時から開田輝実行委員長挨拶とアイスブレイクの後、戦争跡地のフィールド・ワークは奈良教育大周辺の奈良聯隊(れんたい)記念碑、興福寺「花之松の碑」、奈良県立大側のお地藏様付近の空襲被害を物語る戦争遺跡について実行委員が実況中継し、各ポイントの説明と各自の考え・思いを参加者へ伝えました。また、吉川好胤先生による説明で奈良の戦争跡地について詳しく学びました。次に奈良で空襲にあわれた鈴木知英子さんから話を聞きました。毎年工夫を凝らしてパワーポイントで話され、苦しい戦争体験から二度と戦争は繰り返してはいけない、平和の大切

さの思いが伝わりました。鈴木さんは88歳ですが戦争体験を語って50年になるとのことで平和の大切さをあらためて知る機会になりました。事前に配信された「ぴーなら図書館」は平和のコンテンツ(絵本・歌・教科書など)を閲覧して漫然とした平和の知識・関心を高めてグループ・ワークで深め合いました。

例年のように戦跡めぐり、戦争体験者の報告、グループワークなど全てオンラインで開催しましたが、大きなトラブルもなくみんなで戦争に関する思いをあらたにしました。



会場の様子



本部会場の見取り図

Zoom研修会を開催しました

9月21日(日)に奈良県生協連主催で「Zoomを使いこなしたオンライン会議講座(120分)」を講師：青木将幸氏(青木将幸ファシリテーション事務所)で開催、会員生協からZoom参加者22名がありました。

コロナ禍でオンラインの使用が増えてきており、主催者として開催する学習の機会として今回と10月12日の2回を予定しています。

ブレイクアウトルームやジャムボードでグループワークを円滑に進めたり、ホワイトボード(掲載写真の愛犬への書きこみ)で交流したりそのつど疑問を的確にわかりやすく解説していただき参加者から好評でした。Zoomの苦手意識をなくしこれからあらたなコミュニケーションツールとして全体で広め、活用していければと思います。



アンケートより

- ・オンラインを敬遠したらもったいない。もっと気軽に普段の打合せに使っていきます。
- ・実会議とは違った楽しさも感じました。
- ・いろいろな機能があること、使いこなせば会議もリアルでなく、自宅にいてできることがわかりました。
- ・自分自身ホストとして会議を開催したことがなかったので、ホストができることを知ったのは大きかったです。まだ知らない機能もあると思いますが、積極的に使っていきます。
- ・型にはまった会議の形式から抜け出して、また違ったZoom ミーティングの可能性に期待できそうです。
- ・他生協と合同のこのような企画はとてもおもしろく良い交流となりました。それもZoomの面白い使い方だと思いました。

県連日誌

7月

16日(木) 2020年度第2回理事会
20日(月) 第1回生協組合員理事交流会実行委員会
22日(水) 第1回近畿地区生協府県連協議会(於:奈良)
27日(月) ピースアクションをすすめる会
28日(火) 日本生協連地連運営委員会・県連活動推進会議

28日(火) 奈良県立大学生協総会
30日(木) 奈良教育大学生協総代会
31日(金) 奈良県労働者共済生協総代会

8月

1日(土) ならコープ平和ライブラリー(資料整理保存)
6日(木) 第3回30周年記念事業実行委員会
10日(月) フードバンク奈良臨時総会
31日(月) ピースアクションをすすめる会

9月

10日(木) 第2回生協組合員理事交流会実行委員会
17日(木) 2020年度第3回理事会
21日(月) 第1回「Zoomを使いこなしたオンライン会議」研修
24日(木) 日生協地連運営委員会・県連活動推進会議
27日(日) 大学生協Peace Now!奈良2020
29日(火) 第4回30周年記念事業実行委員会



表紙の写真 1990年3月8日設立総会

右から 設立当時

会 長 繁田 實造 (奈良市民生活協同組合 理事長)
専務理事 瀧川 潔 (奈良市民生活協同組合 常勤理事)
理 事 福西 幸夫 (奈良県労働者共済生活協同組合 副理事長)
理 事 田和 成司 (奈良教育大学生協同組合 専務理事)
理 事 横山 史 (奈良女子大学生協同組合 専務理事)
理 事 土田 英二 (おやさと生協 理事)

*奈良市民生活協同組合は現在の市民生活協同組合ならコープです。

奈良県下5つの生協の協同・連帯で生活と文化の向上、平和な住みよい街づくりをと、代議員、オプザーバー、発起人会のメンバー、計44名と日生協、他府県連の来賓8名の参加を得て、「共済会やまと」にて設立総会を開催。設立趣意書の確認、定款・規定案、活動計画・予算案、日本生協連加入の各議案を全会一致で採択、役員を選出し、準備に準備を重ねた県連がいよいよスタートしました。

編集後記

コロナ禍で活動は縮小せざるを得ませんが、30周年記念事業の準備で充実した日々をすごしています(本音は追われる毎日ですが...)。テレワークや会議・セミナーなどオンラインが当たり前になってきましたが、生協連も早くつかいこなせるように悪戦苦闘しています。過去10年の流行漢字は、世相を反映するといいますが過去から順番に「暑・絆・金・輪・税・安・金・北・災・金」でしたが今年は「密」が候補にあがっているとか?早くコロナウイルスが収束に向かつてほしいものです。

(弘)

コロナ禍でにわかに「オンライン○○」が増えたが、私はついていけない。9月27日学生委員により「ピースナウなら」もリモートで開催。「リアル」に近づけようと「現地から中継」など工夫がされた。地域生協理事から「完成度が高い」「ピーなら図書館は自生協でも活かせる」など称賛の声。学生の「皆ともつといっぱい話したいね」との声が印象的だった。

(和)

昨年、東京の若夫婦たちの家に出産時の家事援助で行ってから丸1年。あの時生まれたそうちゃんが伝い歩きを始めたという。東京には94歳の父も兄とおり、最後に行ったのは2月。それ以降新型コロナウイルスの感染を心配して東京には行っていない。東京に気軽にに行けるようになる日はいつになるのだろう。

(順)

暑さもひと段落して秋の気配が近づいてきました。今年は修学旅行も中止になったと聞くと子どもたちの思い出がまた一つ減ってしまったと悲しい気持ちになります。もうすぐ中秋の名月、すすきに団子お供えして、月でも愛でながら早く日常が取り戻せるように月のウサギさんをお願いしてみようかな?

(佳)